

令和5年度 中野区立みなみの小学校学校経営方針

1 立案にあたり

(1) 学校の使命（プロとして教育に携わるものとしての使命）

未来を担う（未来を託す）子供たちの可能性を高め、健やかな成長を支えること。

- 広義での学びはあらゆる場面に存在する。しかし、子供たちにとって、魅力あふれる教師との出会いや学校での学びは、その後の人生に大きな影響を与える。教職はそれだけ貴く、寄せられる期待も大きいことを再認識したい。
- いつ、いかなる場面であっても子供の命や健康を守るのは最優先されるべきである。それは教員についても同様である。自身と家族、そして同僚の健康という基盤があってこそ、職務に専念し、教育活動の充実を図ることができる。

(2) 今学校教育に求められていること

- ・少子高齢化の進行、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等による、予測困難な時代をたくましく生き抜き、多様性を理解・尊重し共生社会の作り手となり、持続可能な社会の作り手となる子供たちを育てること。
- ・だれ一人取り残すことなく、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びを実現すること。（令和の日本型学校教育の実現）
- ・コロナ禍における教育活動の制限から通常の教育活動へと大きく舵を切り直すなか、今後の学校教育の在り方を再構築すること。（不易の教育活動と工夫してきた教育活動のベストミックス）
- ・いじめ問題や不登校への適切な対応。多様な学び方や生き方への理解。

【短期目標】 1～3か月

- ・教職員の協働意識の醸成と体制づくり
- ・学級開きやルール作りを大切に、学年・学級経営の充実、全ての子供が安心して居場所のある学級、教師と子供、子供同士の温かな関わり
- ・いじめの未然防止、早期発見、早期解決が図れる学級風土、学年連携、学校組織づくり
- ・欠席せざるをえない子供への学びの保障を確実に継続
- ・不登校の子供や家庭に寄り添ったきめ細やかな対応
- ・中野区学力調査に向けた指導
- ・体力テストに向けた指導
- ・AI機能搭載学習アプリの活用推進
- ・サービス事故を起こさない職場風土の醸成

【中期目標】 3か月～1年

- ・全ての教科・領域で主体的・対話的で深い学びの視点で課題解決的な学習を推進、教科横断的な学習の充実（カリキュラムマネジメント）
- ・個に応じた課題設定や支援で分かる・できる授業
- ・一人1台端末を文房具のように日常的に活用
 - ※主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、今までできなかった学習活動の実施や家庭など学校外での学びを充実するツールとして活用
 - ※特別な支援が必要な子供へのきめ細かな支援など、子供一人一人に寄り添った指導に活用
- ・道徳教育の充実

- ・特別活動等、子供の自治的な活動の充実
- ・生活指導上の問題は情報を共有したうえで、「まずは学年で指導・支援、次は生活指導部が関わる→管理職が対応」という複層的で厚みのある組織対応を構築

【長期目標】 1～2年

- ・いじめ、不登校の根絶
- ・誰一人取り残すことなく全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと、協働的な学びの実現
- ・学びのスタイルを「知識習得型」から「価値創造・課題解決型」へ転換
- ・リーダーである6年生の背中を見て下級生が憧れや尊敬の念をもつ、6年生は代々学校のリーダーとしての姿を残して巣立つことで伝統を築き、10周年、15周年、20周年…へと継承
- ・コミュニティスクールに向けた地域との連携強化、開校10周年のロードマップづくり

2 学校経営方針

(1) 学校教育目標

社会構造や生活様式が急速に変化する「予測困難な時代」をたくましく生きる日本人として、持続可能な社会の実現に向けて、多様性を理解・尊重し、自ら課題を解決する力や豊かな人間性、社会性の基礎を培う。

○かしこい子 ○やさしい子 ○げんきな子

(2) 目指す児童像

- ・進んであいさつや返事ができる子
- ・目標をもち、努力を続ける子
- ・自他のよさを認め、自分も友達も大切にできる子
- ・感謝の念をもち、自分にできることで返していく子

(3) 目指す教師像

- ・子供一人一人を大切にし、温かく熱意ある指導ができる教師
- ・日々向上心をもち、授業で勝負する教師
- ・子供の成長を喜び、教師としての職務にやりがいと誇りをもてる教師
- ・子供一人一人の学びを引き出し、支援できる教師

(4) 目指す学校像

① みんな ② なかよく ③ 未来に向かって ④ 伸び行く学校

小さなトライを積み重ねよう

- ◆子供たちの笑顔と喜びがあふれる活力ある学校…「分かる・できる喜び」「関わる喜び」「認められる喜び」「成長する喜び」が味わえる学校。みなみの小の子供であること、卒業生であることを誇れる学校。
- ◆保護者・地域が、信頼をよせる安心・安全な学校…安全管理が徹底され、いじめや不登校、体罰、服務事故のない学校。統合で広がった地域の核として、誇れる学校。
- ◆教職員が、誇りをもって生き生きと働く学校…子供の成長を共に喜び、切磋琢磨し合える教職員集団が協働する学校。

(5) みなみの小で大切にしたい「3つのSと1つのT」

スマイル	笑顔に勝るものなし。挨拶の励行。
スピーディー	敏速な対応、敏速な（効率的な）職務遂行。
セーフティー	安全への配慮、安全あつての信頼感。
トライ	<u>よいと思うことは試しにやってみる、一步踏み出す精神。</u> <u>一人一人のトライには限りがあるが、学年・他学年のトライ、教員・子供のトライを共有することで学校の総和とする。小さなトライが様々な波及し学校を変えていく。</u>

(6) 教育目標の具現化に向けた3つの柱

①キャリア教育の充実

各教科・領域の指導を通し、将来自立した人間として社会参画、社会貢献することで自己実現を図れる力を育てる。10～20年後今ある職業の半数はAIにとってかわられる。今の子供の65%は、将来、今はない職業に就くとされているが、自ら課題を見付け解決する力、人間関係を形成していく力等は、予測困難な時代を生き抜く力となる。

○一人1台タブレットの活用を推進し、児童に確かな学力を身に付ける「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実をめざす。

○AI機能搭載学習アプリの活用、習熟度別指導、補充教室、みなみの診断テストによる基礎基本の徹底。

○新学習指導要領の趣旨を生かした授業改善（タブレット端末を活用した課題解決的な学習、意見交流等対話的な学習、プログラミング教育、英語教育の充実）。

○高学年での「一部教科担任制」による学習の充実。

○家庭・地域や企業と連携した体験的な学習の推進。

○読書目標の設定による読書活動の充実。

○理科的自由研究の奨励による理科教育の充実。

○保幼小中連携の充実とキャリアパスポートの活用。

○家庭学習週間の設定による学習習慣の確立。

②人権教育の充実

592人いれば592通りの人格があり個性がある。多様性を理解し、互いを尊重できる力を育てる。性別や性差、国籍、子供や高齢者、障がいの有無にかかわらず一人一人が大切にされ自己実現できる社会を形成するための素地を養う。また、いじめや偏見・差別を排除する。

○全ての子供に居場所のある温かな学年・学級づくり。

○ロング昼休みを活用した縦割り班活動、学年・学級の時間の充実。

○特別支援学級との交流及び共同学習の充実。

○校内委員会を核とした特別支援教育の推進。

○幼・保、高齢者施設との交流、障がい者理解、異文化理解による心のバリアフリーの実現。

○「SNS学校ルール」に関わる指導、家庭と連携した「情報モラル教育」の充実。

○定期的な「いじめアンケート」と「いじめ対策委員会」による、いじめの未然防止と早期発見・早期対応。

○生命尊重の指導による、自他を大切にする心情・態度の育成。SCと連携した「SOSの出し方教育」。

○よさを認め、ほめる指導による、自己肯定感、自尊感情を高める指導。

③健康教育の充実

健やかな体、やさしさとたくましさを兼ね備えたしなやかな心を育てる。自他の存在を大切にするとともに、自らの心や体を見つめ、生涯にわたって健康な生活を送る資質や能力の基礎を培う。

- 長なわ、短なわ、持久走の全校取組、体育的活動の充実。
- 体カテストに向けた、体力目標の設定と自主取組期間の設定。
- オリンピック・パラリンピック教育を継承した、学校レガシーの創造。
- 家庭と連携した「1日60分・週5日の運動習慣」。
- 運動の質と量、思考判断、かかわりを大切にした体育学習の充実。
- 健康づくり教室の開催、保健指導や保健学習の充実。
- 地場農産物や食への理解による、食育の充実。

以上3点を重点に、新たな力が加わった教職員が協働し、みなみの小の特色ある教育活動である「地域との連携、保幼小中連携」「特別支援学級・神明学級の設置校」「年間を通した縦割り班活動」「毎年、学級替えを実施」「一足制、人工芝の校庭」「体育・健康学習」「読書活動」を通して、確かな学力、生命尊重の精神や自己肯定感・自己有用感を育む。保護者・地域との連携を大切にし、児童、教職員、保護者・地域が誇れる学校創りを進める。

3 「みなみの小 親子ルール」の継続と推進

これからの時代を生きる子供たちを家庭と学校が両輪となってよりよく育てるために、「みなみの小 親子ルール」を継続し推進する。「学校ルール」でなく、敢えて「親子ルール」としたのは、子育てや躰の主たる役割は家庭にあると考えるからである。子育ての渦中ではぶれることもあるが、親が真剣に考え子供と交わした約束や幼少期・成長期の家庭でのルールは、これからの時代を生き、自己実現を図っていく子供たちの道しるべとなるはずである。

「親子ルール」なので、家庭毎にアレンジしていただいてもよいが、学校と家庭が価値観を同じくして両輪となること、さらには家庭同士が価値観を同じくすることで、子供の心に響くものとなる。しかし、一方的に押しつけられたルールや約束は、子供にとって窮屈で効果も期待できない。どうして、この約束が大事なのか、これを守るとどういうよさがあるのかを各ご家庭で一つ一つ話し合っ確認し、ときに見直し価値付けていただければ幸いである。

【みなみの小 親子ルール】

- 1 家族や友達、自分を大切にします。
- 2 ありがとう・ごめんなさいを素直に言います。
- 3 進んでお家の手伝いをします。
- 4 くつや脱いだものは、きちんとそろえます。
使ったものは、元にもどします。
- 5 学校へは必要なものだけ持って行きます。
- 6 手紙はその日のうちに出します
- 7 学年×10分の家庭学習に取り組み、
学校の準備や宿題は寝るまでにやります。
- 8 携帯電話・スマートフォンを持ったときは、
親子で使い方を話し合います。
- 9 学校から借りているiPadは学習のために使います。
- 10 ○時に起き、○時までには寝ます。
- 11 （各家庭で）

学校の使命（プロとして教育に携わるものとしての使命）

未来を担う（未来を託す）子供たちの可能性を高め、健やかな成長を支えること。

目指す児童像

- 進んであいさつや返事ができる子
- 目標をもち、努力を続ける子
- 自他のよさを認め、自分も友達も大切にできる子
- 感謝の念をもち、自分にできることで返していく子

学校教育目標

社会構造や生活様式が急速に変化する「予測困難な時代」をたくましく生きる日本人とし、持続可能な社会の実現に向けて、多様性を理解・尊重し、自ら課題を解決する力や豊かな人間性、社会性の基礎を培う。

かしこい子 やさしい子 げんきな子

目指す教師像

- 子供一人一人を大切にし、温かく熱意ある指導ができる教師
- 日々向上心を持ち、授業で勝負する教師
- 子供の成長を喜び、教師としての職務にやりがいと誇りをもてる教師
- 子供一人一人の学びを引き出し、支援できる教師

小さなトライを積み重ねよう

みんな なかよく 目指す学校 みらいに向かって のび行く学校

- ◆子供たちの笑顔と喜びがあふれ、活力ある誇れる学校…「分かる・できる喜び」「関わる喜び」「認められる喜び」「成長する喜び」が味わえる学校。
- ◆保護者・地域が信頼をよせ、誇れる安心・安全な学校…安全管理が徹底され、いじめや不登校、体罰、服務事故のない学校。
- ◆教職員が誇りをもって生き生きと働く学校…子供の成長をともに喜び、切磋琢磨し合える教師集団が協働する学校。

みなみの小で大切にしたいこと

3つのS…スマイル（笑顔に勝るものなし、挨拶の励行）・スピーディー（敏速な対応）・セーフティー（安全あつての信頼感）
 1つのT…トライ（よいと思うことは試しにやってみる、一歩踏み出す精神。）一人一人のトライには限りがあるが、学年・他学年のトライ、教員・子供のトライを共有することで学校の総和とする。小さなトライが様々に波及し学校を変えていく。

かしこい子～キャリア教育の充実～

- ①「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実。
- ②AI学習アプリの活用、習熟度別指導、補充教室、みなみの診断テストによる基礎基本の徹底。
- ③新学習指導要領に基づく指導の充実（主体的・対話的な学習、地域や企業と連携した学習、プログラミング教育、職業に関わる学習）。
- ④高学年での「一部教科担任制」による学習の充実。
- ⑤家庭・地域や企業と連携した学習の推進。
- ⑥読書目標の設定（低学年…月7冊、高学年…月300ページ）と読書月間の実施。
- ⑦保幼小中連携教育の充実。キャリアパスポートの活用。
- ⑧理科学的自由研究の奨励による理科教育の充実。
- ⑨家庭学習週間の設定（7月・12月）と家庭学習の手引きの配布による学習習慣の確立。

やさしい子～人権教育の充実～

- ①全ての子供に居場所のある温かな学年・学級づくり。
- ②ロング昼休みを活用した縦割り班活動、学年・学級の時間の充実。
- ③特別支援学級と通常の学級との交流及び共同学習の充実。
- ④校内委員会を核とした特別支援教育の充実。
- ⑤幼稚園・保育園、高齢者施設との交流、障害者理解、異文化理解による心のバリアフリー。
- ⑥「SNS学校ルール」に関わる指導、家庭と連携した「情報モラル教育」の充実。
- ⑦定期的な「いじめアンケート」「いじめ対策委員会」による、未然防止と早期発見・早期対応。
- ⑧生命尊重の指導、認め、ほめる指導による、自他を大切にする心情・態度。
- ⑨自己肯定感、自尊感情の育成。

げんきな子～健康教育の充実～

- ①長なわ、短なわ、持久走の全校取組、体育的活動の充実。
- ②体力テストに向けた、体力目標と自主取組期間の設定による意欲付け。
- ③オリンピック・パラリンピック教育を継承した「学校レガシー」の創造。
- ④家庭と連携した「早寝・早起き・朝ごはん」「1日60分・週5日の運動習慣」。
- ⑤運動の質と量、思考判断、かわわりを大切にしたい体育学習の充実。
- ⑥健康づくり教室、保健指導、保健学習、学校保健委員会、がん教育による健康指導の充実。
- ⑦地場農産物や食への理解による、食育の充実。